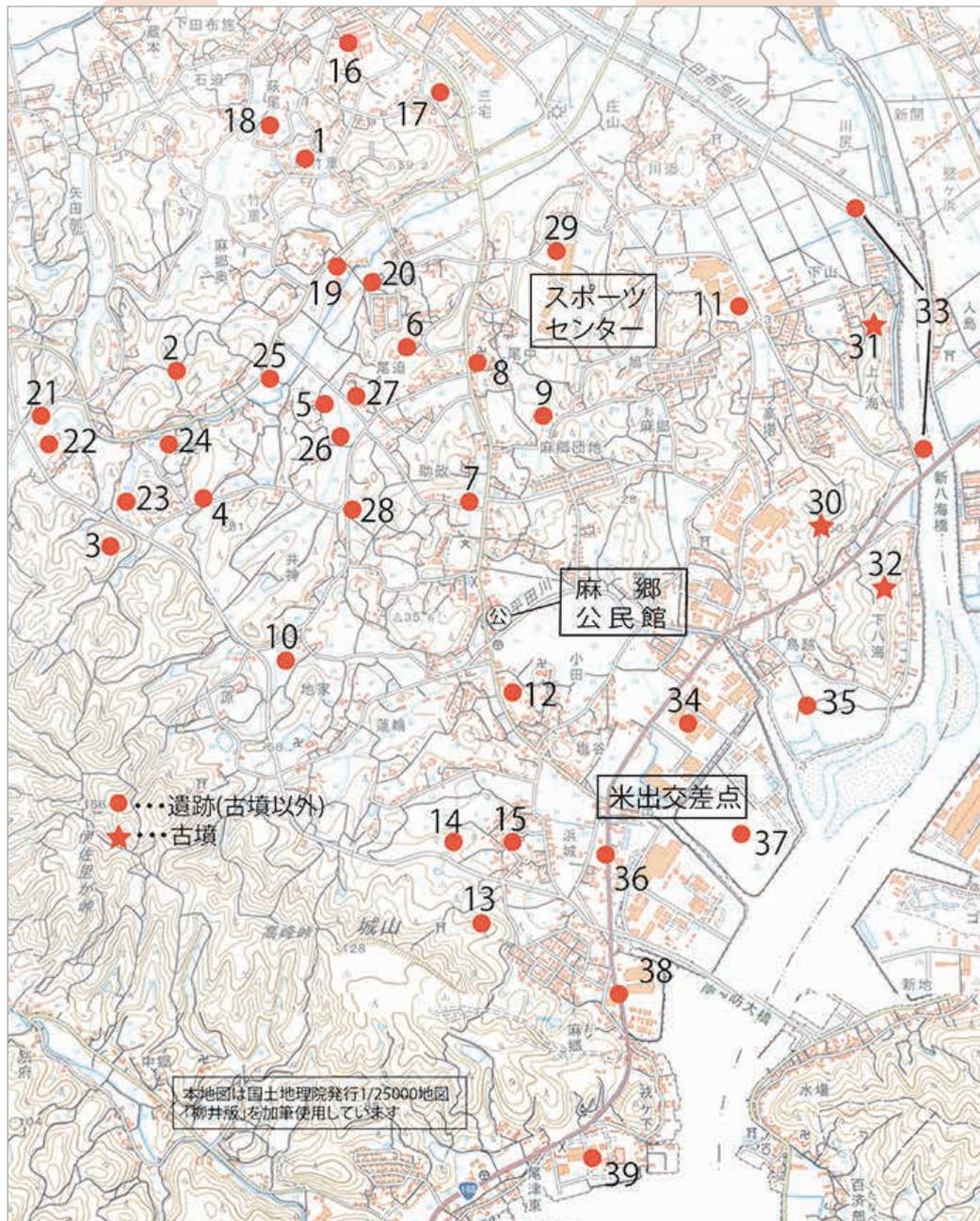


麻郷公民館区域内の遺跡を紹介します

関社会教育課 ☎25・3185



No	古墳・遺跡名	時代・特徴など
1	竹重遺跡	弥生時代
2	警固屋遺跡	弥生時代～古墳時代
3	奈良二ツ池遺跡	弥生時代～古墳時代
4	奈良遺跡	弥生時代～中世
5	伊幸田遺跡	弥生時代～古墳時代
6	尾迫遺跡	弥生時代～古墳時代
7	助政遺跡	弥生時代～古墳時代
8	尾中遺跡	弥生時代
9	月輪遺跡	弥生時代～古墳時代
10	地家遺跡	弥生時代～古墳時代
11	藤尾遺跡	弥生時代～古墳時代
12	蓮輪遺跡	古墳時代～平安時代
13	浜城A遺跡	弥生時代～古墳時代
14	浜城B遺跡	弥生時代～中世
15	浜城遺跡	弥生時代～古墳時代

現在、麻郷公民館区域内で『遺跡』が約39カ所発見されています。これらは、旧田布施工業高校周辺から田布施川河口周辺にかけて点在しています。遺跡の時代も、縄文時代～江戸時代とさまざまです。

◇お詫びと訂正

3月9日号の『東田布施公民館区域内の遺跡を紹介します』において、14ページの東田布施公民館の位置が違っていました。また、15ページのリスト27番の説明欄で『墳丘の大半が削併平』とあるのは『墳丘の大半が削平』の誤りです。お詫びして訂正します。

No	古墳・遺跡名	時代・特徴など
39	麻郷塩田大黒屋浜跡	1802(享和2)年に久保新左衛門によって築立した塩田跡。
38	麻郷塩田菊屋浜跡	1738(元文3)年に庄屋・中道吉衛門によって築立された塩田跡。
37	麻郷塩田御開作浜跡	寛政期(1789~1800年)に大野毛利氏(毛利家一門)によって築立された塩田跡。
36	麻郷塩田長田屋浜跡	1806(文化3)年に岸半右衛門によって築立された塩田跡。
35	麻郷塩田鳥越浜跡	1776(安永5)年に内藤市三郎と他1人によって築立された塩田跡。
34	麻郷塩田源治郎浜跡	1771(明和8)年に天田部善五郎と他1人によって築立された塩田跡。
33	田布施川河床遺跡	河川の床から縄文・古墳時代の土器と貝殻多数と少量の動物の骨を発見。
32	下八海古墳群	新八海橋を田布施側に渡って南側の丘陵。4基の古墳を確認。北側の1基は円形もしくは前方後円墳形の墳丘で、墳頂に蟹守様の祠がある。それぞれ墳丘の径は20~30m。
31	上八海古墳群	新八海橋を田布施側に渡って北側の丘陵。6基の古墳を確認。南側の1基は天神山古墳と呼ばれる全長約30mの前方後円墳で、天神社の境内にある。他の北側の5基は、径約5~15mの円墳。
30	高塔古墳群	標高約40~50mの山頂尾根筋に3基の古墳(円墳)。1号墳は径20mの円墳で、石棺が露出。
29	山崎原遺跡	時代の土器片を、4回目の調査で土坑や柱穴、弥生土器や黒曜石製の矢じりを確認。
28	守吉遺跡	試掘調査で弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器が出土。石製の矢じりを確認。
27	有宗遺跡	試掘調査で弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器が出土。
26	下板倉遺跡	試掘調査で須恵器が出土。
25	見用遺跡	試掘調査で住居跡、溝、土坑、柱穴と土師器、須恵器を確認。
24	田中遺跡	試掘調査で土坑、溝、柱穴?と土師器を確認。
23	平原遺跡	試掘調査で柱穴と土師器、瓦質土器を確認。
22	三坪遺跡	発掘調査中。弥生時代を中心とした集落遺跡。縄文時代~中世の遺構・遺物が多数出土。現在、発掘調査中。
21	一神堂遺跡	試掘調査で柱穴2つと弥生土器を確認。
20	八頭遺跡	試掘調査で弥生土器や土師器が埋まっていた土坑や複数の柱穴を確認。
19	松本遺跡	試掘調査で土師器、瓦質土器、須恵器が出土。
18	萩尾五郎部遺跡	弥生~中世。2016年の調査でピット9基、溝1条と土器片を確認。
17	三宅遺跡	旧田布施工業高等学校の南東側の丘陵。縄文時代~中世の土器を確認。三宅(=屯倉)は、朝廷の直轄領を意味する地名として重要視されている。
16	神過原遺跡	が出土。1993年の分布調査でも、縄文時代~中世の土器が出土。
No	古墳・遺跡名	時代・特徴など

20歳を迎えて

石丸 貴博

わたしは、この1月に晴れて成人式を迎え、ようやく大人の仲間入りができたことをとても嬉しく思います。成人式当日は、田布施中学校時代の友人たちをはじめ恩師にもお会いでき、思い出話に花が咲く充実した時間を過ごすことができました。

わたしは中学校を卒業した後、国立大島商船高専に入学生し、現在まで海技従事者になるために講義や実習を受けてきました。昨年度、その養成課程で日本丸という大型船に乗船し、3カ月間の国内航海と2カ月間の遠洋航海を経験しました。船ではその閉鎖空間の中で、100人以上の実習生が長期間の共同生活を強いられます。狭い船内ではプライバシーがほとんど無いため、普段よりも他人を思いやった言動を心掛ける必

要がありました。そのような物理的にも精神的にも制限された環境の下での生活は、対人関係について深く考えさせられる良ききっかけになりました。

日常生活において、わたしたちは必ず何らかの集団に属しています。学校、職場、あるいは住まう地域などといった、さまざまなコミュニケーションがある中で、人との交流は生活から切り離すことのできないものです。そのため、相手の立場で物事を考え、思いやりを持つといったことは、生きる上で非常に大切であると感じます。船での生活を通じて、そのように人と支え合いながら生きる姿勢の大切さを身をもって学べたことが、何よりも貴重な経験であったのではないかと思います。

20歳になり、社会人を目前に控えた現在ですが、これからは今まで以上に困難に直面することが多くなると思います。しかし、これまで学んだことを糧に、どのような場面でも他人を思いやる心を忘れず、人と支え合える人間になりたいとわたしは思います。